

学校評価結果公表シート

昭和学園

昭和学園は平成23年から『認定こども園』として歩んでいます。また、大人になる土台として健康教育、情操教育を目標に多種多様な保育の体験に取り組んでいます。時代の流れの中でもしっかりと地に足を付け更に『教育の質、向上』に向けて日々努力しています。毎年1回保護者からの評価アンケートを実施し、自己評価、外部評価との結果を踏まえて今後の教育・保育に役立てていきたいと思いません。

◆目指す幼児像◆

愛…思いやりのある優しい子ども

☆命の尊さを知り、友達の心の痛みが分かる子ども

夢…元気な子ども

☆早寝、早起き、朝ごはん心身共に健康で明るい子ども

未来…生き生きと表現する子ども

☆物事への興味や関心を持ち、自分で考え楽しく表現する子ども

◆教育目標◆

人間性豊かで心身共に健全な子どもの育成に努める。

清く（知的、理性的な子ども）

美しく（情操豊かな子ども）

たくましく（意思・体力のある子ども）

仲良く遊ぶ（思いやりのある子ども）

◆教育・保育方針◆

国家百年の人材の基礎は教育にあり、しかもその根源を培うものは、幼少年の教育にあることはいうまでもない。「三つ子の魂、百まで」との諺のように、幼児期は人格の形成期であり、その人の生涯の人格が決まる大切なこの期に良き環境と適切な指導により健康で美しい人材育成を目指す。

◆努力目標◆

生きる力の育成を根底にそれぞれの発達段階に応じたねらいを持ち、流れのある保育活動を行う。その中で、いろいろな経験や体験をすることで自ら考えて行動できる子ども、いろいろな事を心や身体で感じる心豊かな子どもの育成に努める。

項目	評価	取り組み状況
教育目標	A	園生活に早く慣れ、一日の保育の流れに沿って生活活動を保育者と一緒に行えるように援助する。基本的な生活習慣が身につくように日々の挨拶や返事・食事・排泄の仕方等を自発的に進めていけるように援助する。園の教育目標、保育方針、努力目標に沿って学年目標を決め、学年だよりに掲載。教育目標に沿った学年目標を設定し、そのねらいに沿って保育計画を立てる。質を高め、よりよい保育ができるよう、こまめに計画など職員間で話し合いをする。
情報発信	A	毎日保護者と保育者で連絡ノートを入れている。園での様子を撮った写真を保育室入り口に掲示している。同時にInstagramでも動画や写真をアップしている。連絡ノートを家庭と園とでやり取りを行い、健康面・環境（家庭・園）の様子を記入することで安心して預けていただけるように心がける。送迎時に子どもの様子を話し、家庭での様子も聞き、情報を共有する。はなまる伝言板やSNSを使って活動の様子をお知らせする。保護者への連絡はノートに書けない時や怪我などがあった場合、電話連絡をする。園日よりクラスだよりで日々の子どもの様子をお知らせなどをする。SNSへの許可を確認し、行事や活動の様子などを写真付きで見てもらっている。
危機管理	B	毎月避難訓練を実施。保育者間で役割分担をして確認。また、絵本やペープサートなどで分かりやすく火災などの話を子どもたちに伝えている。学期に一回避難車の安全点検を行う。避難訓練を行い、危ない場所のチェックをしておく。おんぶ紐のチェックも行う。玩具のひびの確認、毎日消毒を行う。室内で走り回ったり、椅子の上で立ったりして危ない事をしないようその都度声掛けや指導を行う。避難訓練に参加したあと、訓練の内容や大切さが理解できるように取り扱いをする。災害時の避難方法を身につけられるように訓練に取り組む。安全に園生活を送れるよう、保育室・園庭・遊具など毎月点検を行い、事故や怪我がないようにしている。
基本的な生活習慣の育成	A	挨拶、返事、身支度、手洗い、食事の仕方、排泄面など基本的な生活習慣の基礎が身につくように丁寧に個々に応じて教えている。挨拶は保育者同士も行い、見せる。「さようなら、また明日」の挨拶を元気に言い、明日もまた元気に登園する意欲をもたせる。次の学年の生活を見通して、生活リズムを整えていく。自分の力でやってみようとする姿勢を褒め、自信をつけていく。子どもができたことや頑張っている事を保護者に頑張っていることを保護者にも話し、家庭でも褒めたり取り組みに協力したりしてもらえよう伝えていく。自分の身の回りの事が一人でできるようになるように援助をしながら自立を促していく。自分の事は自分で言い、スリッパを並べる、汚れたら拭くなど考えながら身につけていけるようにする。
保育の状況	B	一人一人の発達に応じて対応し、信頼関係を築いて行く為に担当制の保育を導入している。保護者が相談しやすいように担当制を伝えて送迎の際の受け入れや食事の見守り、援助、ノート記入は担当保育者が行う。トラブルを未然に防ぎ、友だちと仲良く遊ぶマナーや善悪の判断などが身につけていくような関わりを心がけている。子ども達の興味や関心を持つことと生活の流れを結びつけるように保育を進めていく。一人一人の発達・月齢に応じて関わり方を工夫していく。協調性や社会性などが少しずつ身につくようにする。マラソンや外遊びを積極的に行い体力作りをする。人の気持ちを考えながら行動できる優しい気持ちを育む。一人一人の興味・関心に応じて保育内容を考え、どの活動にも意欲が持てるように計画を立てたり援助したりする。一日の活動の流れを知らせ、見通しをもって意欲的に活動できるようにする。

園生活	A	信頼関係を築きながら一人ひとりとの関わりを大切にし、安心感がもてるような環境で過ごせるように配慮する。園外散歩に出かけて自然を感じながら散歩を楽しむことができるよう取り組んでいる。季節に応じた環境作りを行い、物の名前、行事などと生活遊びをつなげて楽しく活動する。子ども達が安心して笑顔で元気に登園できるように言葉がけをする。自分でできることは自分でしようしたり、どの活動にも意欲的に参加したりできるよう声を掛けていく。清潔で安全な保育室環境を整える。友だちとの関わりを楽しみながら様々な活動を通して共に成長できるように取り組んでいく。自分のやりたいことを率先して行えるようにし、毎日笑顔で安心感を持って過ごせるような関わり、声掛けを行う。子どもの気持ちを受け止め、安心して園生活が送れるような関わりを心がける。
園行事	B	0歳児から大運動会や発表会など大きな行事にも参加して達成感を味わえるようにしたり、様々な体験が楽しんでできるように取り組む。参加がまだ難しい行事は以上児が体験している様子を見学する。親子や祖父母との触れ合いを大切にする。行事にちなんだ製作を行い、より楽しめるようにする（ハロウィンや曳山采配製作等）。行事本番に向けての練習、取り組みの過程を大事に考え、少しずつ積み上げていく。行事ごとに全体や学年で打ち合わせをし、安全面などに配慮しながら楽しい思い出となるようにする。行事に向けてつながるように日々の保育から取り入れて期待を持てるようにする。前年度の反省を踏まえながら行事について入念に打ち合わせをし、スムーズに子どもたちが楽しめるようにする。
子育て支援	A	一時預かりのお子様は在園児と一緒に過ごす。受け入れを無理なく行い、他児と一緒に楽しく活動できるようにする。成長の段階で悩みがある場合は保護者に応じて直接話をしたり聞いたりする。保育の時間に気になったことなどがあれば預かり保育担当職員にも伝え、子どもの様子や連絡事項など情報の共有、共通理解をする。
絵本読み聞かせ	A	食事や活動の前に畳に集まって座って、保育者が絵本の読み聞かせを1日3回ほど行っている。同じ絵本を何度も読み聞かせすることで子どもたちは親しみが持てるので、繰り返し読み聞かせをするように取り組んでいる。毎日読み聞かせを行い、物の名前、動物、キャラクターなどに興味を持たせ、落ち着き集中できる時間を持つ。保護者による絵本読み聞かせがある前日に誰の保護者が来てくれるのかを知らせ、期待を高める。静かに落ち着いて話を聞く態度を養っていく。園の図書館に様々な種類の絵本を取り入れ、絵本に対する興味も高めていく。

※（評価の基準）

A…十分に達成している

B…達成している

C…取り組みが不十分である

D…ほとんど取り組めていない